

中学総体 2021

〈第3日〉

県中学校総合体育大会第3日は27日、各地で8競技を行い、ハンドボールは男

女ともに仲西が優勝した。男子仲西は決勝で東風平を26-13で破り、中止になった昨年を挟んで2連覇。女子仲西は26-20で神森を下し、4年ぶりの頂点に立った。

2勝1敗で並び、彩橋が得失点差で競り勝って3年ぶり2度目の優勝を飾った。テニス個人の男子シングルスは宮里琉星(長嶺)、女子は宇都宮卓絵(古蔵)、男子ダブルスは滝沢匠也・立津陽向組(高江洲)、女子は石嶺妃菜・石嶺美倫組(那覇)が優勝。ソフトテ

ニス男子個人は吉川憲二・朗・高嶺大弥組(川平)、女子は石垣蒼・伊吉菜夢組(具志頭)が制した。第4日の28日はサッカーなど5競技を行う。

仲西	26	15	11	9	11	20	神森
東風平	36	34	24	宮里	浦	神	森

仲西、男女制す

なかなか頂点に届かなかった男子仲西が、一番で優勝をつかんだ。第1シードの浦添を破った東風平との決勝を26-13で圧倒。下地叶也主将は「チームが一つになった。良い仲間に出会えた」と喜んだ。

184センチの下地を筆頭に、170センチの中盤がすわりとさうろ。壁を抜かれても、GK喜名志成と大城凧が決定的な場面を止めた。

長所について「苦しいところまで粘れること」と断言し、手には速さがある。下地主将は九州や全国で通用する(富山学)

男子決勝 仲西-東風平 前半、仲西の下地叶也が高い打点からシュートを狙う。ANAアリーナ浦添(金城健太撮影)

県新人大会で優勝を逃したチームが出場する九州選抜を制した後、「浮かれ気味になっていた」と下地主将。春季大会で3位、地区大会では5位と振るわず、毎朝ミーティングを重ねて気持ちを一つにした。

成果が出たのは地区大会で敗れていた神森との準々決勝。下地が前半途中で失格しても、RB大城翔太郎が8得点でカバーするなど一丸で勝

高さ生かし圧倒 男子



エース野底 11得点 女子

女子仲西は神森との決勝を26-20で制し、1月の新人大会、4月の春季大会に続いて頂点に立った。高くて攻撃力のある相手に苦しんだ。リードしながらも突き放せなかったが、「小さいチームは足を動かして必死に食らい付くしかない」(翁長監督)。残り10分間で1失点を集中力を発揮し、堅守速攻で勝負を決めた。翁長監督は「普段から走っている。我慢比べなら負けない」と胸を張った。



里女優勝の仲西



女子決勝 仲西-神森 前半、仲西の野底桃加がシュートを放つ